

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004 0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道博物館内
電話/011 898 0456・FAX/011 898 2657

北海道博物館のリニューアルについて

去る4月18日、北海道博物館がオープンしました。当館は、施設は旧北海道開拓記念館(1971年開館)の施設を改修し、組織機構では北海道開拓記念館と旧北海道立アイヌ民族文化研究センター(1994年設立)とを統合して、新たに開設(リニューアル)したものです。

リニューアルまでの経緯

2007(平成19)年、知事は、公約の中で「開拓記念館のリニューアルによる北海道ミュージアムの設置に取り組む」ことを挙げ、翌年、北海道文化審議会に「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問しました。

同審議会の答申を踏まえ、道は2010年に「北海道博物館基本計画」を策定します。そこでは、新しい博物館の基本方針の柱として、1) 北海道の自然・歴史・文化に関する総合博物館とする、2) アイヌ民族文化研究センターと統合しその機能を継承してアイヌ文化の調査研究、展示等の強化を図る、3) 北海道の中核的立場を担う博物館をめざす、の3点が定められました。

新しい総合展示

リニューアルに当たり、先ず、展示室内のエレベーター設置などのバリアフリー化や、ガス消火設備の導入など資料保存環境の改善に向けた施設改修を実施、これに伴い展示全体についても改修しました。

展示では、「北東アジアのなかの北海道」「自然と人のかかわり」という2つの視点をコンセプトに、常設展示(リニューアル後は「総合展示」としました)を、これまでのいわゆる通史展示から、北海道の自然・歴史・文化を5つのテーマで物語るテーマ展示へと大きく舵を切りました。

このほか、数ヶ月単位で展示を入れ替えていくコーナー(「クローズアップ展示」)や、来館者参加型展示のコーナーも設けています。

新しい総合展示のテーマ構成は次のとおりです。

第1テーマ 北海道120万年物語

およそ120万年前から20世紀初めごろまでの北海道とそこに生きた人びとの歩みをたどる。

第2テーマ アイヌ文化の世界

アイヌ民族の現在、伝統的な生活文化、アイヌ語の物語や歌などにふれる。

第3テーマ 北海道らしさの秘密

産業や暮らしに見られるさまざまな〈らしさ〉を、近現代の北海道のなかにさぐる。

第4テーマ わたしたちの時代へ

20世紀の初めから現代までの北海道の歩みをたどり、北海道のいま、そして未来を考える。

第5テーマ 生き物たちの北海道

生き物の視点で北海道の自然を見つめ、生き物どうしのつながり、人と自然の関わりを考える。



第5テーマ「生き物たちの北海道」より

これからの北海道博物館にむけて

当館の新たな出発は始まったばかりです。「北海道の中核的博物館」という目標についても、具体的なネットワークの構築はこれからの課題です。今春、4名の新規採用職員を得て、初発の意欲とエネルギーを持続し、また強めていけるようにしたいと考えています。

最後になりましたが、今回のリニューアルに当たり、多くの方々にご支援・ご協力をいただいたことに、改めて深く感謝申し上げます。これからのいつそうの充実と成長でお応えできるよう、つとめて参ります。

(北海道博物館 研究部長 小川正人)



「北広島エコミュージアム構想」 の実現に向けて

平成26年7月に誕生した「北広島市エコミュージアムセンター知新の駅」は、北広島エコミュージアム構想(22年3月)を推進する拠点であり、展示、調査研究及び教育普及などの機能を発揮していく施設です。開館から約1年ですが、常設展示の内容、企画展や特別展の発想など、いろいろなことを試行し挑戦する日々が続く中、このたび北海道博物館協会に加盟させていただきました。これからどうぞよろしく願いいたします。

さて、「エコミュージアム」は、60年代のフランスで博物学者リヴィエールが提唱した新しいタイプの博物館です。一定地域に残る史跡、建造物、産業遺跡などを将来にわたり保存すべき遺産ととらえ、現地で展示・活用することで地域全体を屋根のない博物館とし、地域遺産全体をさまざまに活用する「まちづくり」の一手法でもあります。

道内外の先進事例では、それぞれ固有の歴史や環境などを生かした活動をしています。

北広島市には、自然・歴史・産業の各分野で数多くの地域遺産があり、これらを発掘(再発見)し生かして

いくことが、北広島ならではのエコミュージアムづくりの出発点といえます。

また、本市では構想策定と並行して「まちを好きになる市民大学」を開設し、「まるごときたひろ博物館員」に認定した卒業生はこれまでに93人。現在は同大学OB会に61人が所属し、自然遺産や歴史遺産に関して活動するほか、当センター主催の歴史遺産発見バスツアーや館内のガイド、企画展準備での実物大マンモス頭部模型や立体地図の作成、パネル作成などに協力をいただいています。

北広島市のエコミュージアムは、これからも市民の皆さんとの協働で、成長を続けます。その成長には、情報の収集・分析・発信力の強化が欠かせません。学びと実践の二刀流でエコミュージアムによるまちづくりを、一步一步進めていきます。



常設展示コーナーの一部
(古生物・地層)

(北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 センター長 小島 晶)



平成27年度研修会 「館内のできる紙資料の修理について」

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、今金町民センターを会場として、平成27年6月26日(金)に総会・研修会を行った。

研修会は、函館市の宮村智子氏を講師に迎え、「館内のできる紙資料の修理について」と題して行われた。

ここ数年、道南ブロックの研修会は実践的な内容で実施している。資料の修理については、取り扱う資料や修理内容により、専門業者へ委ねたほうが良い場合もあるが、今研修会では、手に入れやすい道具や用具を使い、各施設で行うことのできる簡便な修理について研修することとした。

初めに、講師から1時間ほどの講義をしていただいた。まず、紙資料を修理するに当たっての基本的な考え方の説明を受けた。次いで、取り扱う資料の構造や形態、また「紙の目」など紙自体についての説明を受けた。

講義の後、参加者全員に修理道具を準備し、実際に修理実習を行った。

各人は、まず厚さの異なる4枚の和紙を比べてみた。資料の上に重ねても文字が透けて読める「典具帖紙」

が一番薄い。次いで「2匁」「4匁」「6匁」と厚くなっていく和紙を手に取り、修理対象の資料により、修理材料となる和紙の厚さを選ばなければならないことを理解した。

さらに、破れた資料を和紙で継ぐ実習、千切れた資料を和紙で貼り戻す実習、欠損部分を和紙で補填する実習を行った。

初めて紙資料の修理を行う人が多かったので、糊の溶き方や塗り方で失敗することもあった。講師も仰っていたが、研修会を契機に何回も練習をすることで技術が身に付くことになる。

各館の業務に結びつく有意義な研修会だった。



研修会の実習の様子

(江差町郷土資料館 学芸員 宮原浩)



フィールドはじめ

沢の雪が融け、安平志内川の雪解け水が落ち着く5月下旬が、中川のフィールドシーズンの幕開けです。毎年、この時期は化石会の方々と“ハンマー下ろし”です(ちなみにフィールドシーズン終了の11月上旬には“ハンマー納め”です)。ハンマー下ろしでは、一冬越した露頭の状況のチェックを行なうほか、ギョウジャニンニク、ヤチブキ、フキなどの山菜を採ります。フィールドから帰って、それらを投入したジギスカン鍋と本日の成果を肴に杯を重ねます。様々な味の溶け出したこのジギスカンが一年の中で一番うまい!と毎年思います。

もうひとつこの時期の定番として、当センターの施設管理・食事提供・ミュージアムショップ運営などを担っている「NPO法人エコール咲く」の方々とフキ(アキタブキ)採りに出かけます。採ったフキは塩蔵され、今年の宿泊研修の食事の一品になるほか、少量ですが販売用の「中川町産フキの水煮」に加工されます。

中川のフキといえば、昭和7年に兄・守谷富太郎を訪ねてアララギ派の歌人・齋藤茂吉が中川村志文内(中川町共和)を訪ねた際「青々とおどろくばかり太き

露が沢をうづめて生ひしげりたる」と詠んでいます。富太郎は東京の茂吉にフキを送っていたようで、書簡に「フキは大きくて珍しいのでアララギの諸君にも醤油で煮付けるといいと分けた」とあります。ヤマメ・イワナ、そしてフキなど大量の中川特産品を送ってくる富太郎に茂吉は「すべての珍品は少なきを尊しとす。さうでない、珍品も平凡化していかなぬもの也」とたしなめています。茂吉も食した中川のフキを私たちは今でも食すことができます。しかし宿泊研修に来る児童生徒は、フキのきんぴらや焼魚のご飯の朝食は残しがち。朝はパン食にするかという調理の方々の話を聞くと、時代かなあと思いつつ、“食育”も博物館の仕事のひとつかもと考えてしまいます。



フキの質や採り方に皆こだわりがあります

(中川町エコミュージアムセンター 主査 足田 吉識)



平成27年度 日胆地区 博物館等連絡協議会 総会・研修会 開催報告

5月14日・15日の両日、4月5日に新築オープンした「新ひだか町博物館」を会場に、胆振・日高の各館園から関係者27名が参加して、今年度の総会・研修会が開催されました。

総会に先立って行われた研修会では、藪中剛司館長から、住民の代表者らによる「建設検討委員会」の立ち上げや協議、館の基本構想の策定や、基本設計・実施設計を経て、博物館と図書館との複合施設として開館に至る、一連の経緯について説明がありました。

続いて展示室の見学に移り、コーナー毎に展示担当者による解説が行われ、当初の計画から現在の展示に落ち着くまでの紆余曲折を交えながら、内容についての解説がありました。

このあと、バックヤードを含む各室の見学を行い、研修会を終えました。

総会では役員改選が行われ、会長に藪中剛司館長(新ひだか町博物館)、事務局長に三谷智広学芸員(洞爺湖町入江・高砂貝塚館)が選出され、新たな体制がスタートしました。

2日目の現地見学は、新ひだか町三石地区にある「梟舞望洋チャシ跡」を見学しました。

肌寒く、時おり霧雨が混じるあいにくの天候でしたが、そんな悪条件をものともせず、けもの道の斜面を進むこと30分、標高約70mの丘の上に辿りつきました。そこは梟舞川の河口や太平洋、付近の平野部が一望できる、幅5m×長さ25mに及ぶ立派な壕が構築された、丘先式のチャシ跡です。本格的な調査は未だされておらず、その立地も相まって、まさに知る人ぞ知るチャシ跡です。しばし眺望を堪能し、チャシが構築された往時に思いを馳せ、現地を後にしました。



展示室の見学風景

(新ひだか町博物館 学芸員 小野寺 聡)



もっと紀要を知ってもらうために

多くの博物館では、研究成果の報告や収蔵資料の紹介などのため、毎年1冊の定期刊行物として「紀要」や「研究報告」と呼ばれる雑誌を出版しています。出版後は全国の博物館同士で交換をしたり、国立国会図書館や地域の図書館へ納本をして、多くの方に利用してもらえるように努力しています。

今日、インターネットで情報を検索するのが当たり前前の時代となり、こうした雑誌に掲載された記事(論文のタイトルや執筆者)も、ネット上に公開されたデータベースで検索するのが当然となりました。その内容も、いわゆる目次情報から、本文そのものをPDFでネット上に公開する形式で主流となりつつあります。

ところが、こうした流れから取り残されている出版物が、実は市町村の博物館紀要なのです。その理由のひとつに、国立国会図書館の「雑誌記事索引」が、市町村立館の出版物を採録しない決まりになっていることがあります(道立館や私立館の紀要は採録されています)。

雑誌記事索引に採録された目次情報は各種の文献データベースに採録されるため、インターネット上

での人々の目に触れる機会も大きくなります。しかし現状では、市町村の博物館紀要は文献データベースからはじかれたままで、存在自体に気づかれない可能性が大なのです。

そこでいま、この雑誌記事索引に関する決まりを改正し、市町村立博物館の紀要もデータベースに載せて欲しい、という運動に取り組んでいます。この問題の解決には、博物館だけでなく図書館や情報学の人々との連携・協力が不可欠です。モノとヒトをつなぐための連携の輪が、静かに少しずつ広がりつつあります。



道内の主な市町村立博物館

(浦幌町立博物館学芸員 持田 誠)



紋別市立博物館企画展「江戸川乱歩と橋薫一旧蔵資料展」を開催

紋別市立博物館では、平成27年6月13日(土)から7月5日(日)にかけ企画展「江戸川乱歩と橋薫一旧蔵資料展」を開催しました。

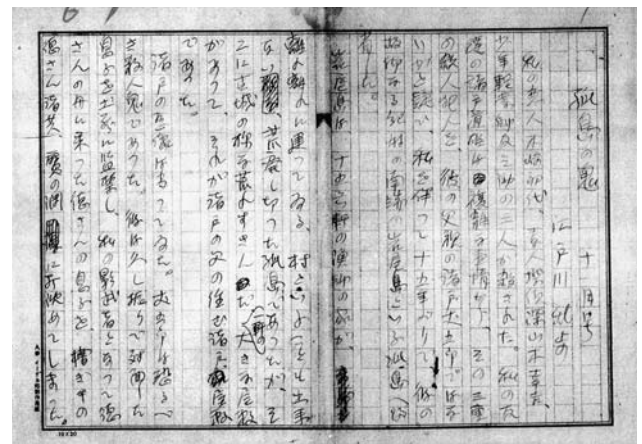
故橋薫一師(紋別市の真宗大谷派圓滿寺二代住職)は継職以前、大正から昭和にかけて、大手出版社の講談社と博文館に勤務し出版界の最前線で活躍されました。特に博文館では昭和4年から8年まで刊行された大衆雑誌「朝日」の編集長を務め、また広辞苑の基となった辞典「辞苑」の編纂に携わりました。

紋別に戻られてからは、昭和27年から10年以上に亘り教育委員・委員長を務めるなど教育にも力を注がれ、文化面では北潮文化懇話会をつくり、当時無名だった版画家の棟方志功や、陶芸家の河井寛次郎、浜田庄治(のちの人間国宝)を招聘するなど紋別の文化の向上にも貢献されました。

また、博物館建設準備委員をされていた昭和42年に、旧蔵していた江戸川乱歩や吉川英治の自筆原稿などを郷土博物館に寄贈されました。江戸川乱歩の「孤島の鬼」の自筆原稿は昭和の貴重な資料であり、また、紋別市民にとって大きな財産であると云えます。

今回は昨年、圓滿寺開創百二十周年を記念して寄贈いただいた雑誌「朝日」7冊組や西条八十の自筆原稿などの新たな資料も併せて展示し、多くの方々に橋薫一師の足跡を紹介することができました。また、今年には図らずも江戸川乱歩の没後50年、広辞苑が岩波書店から発行されて60年の年でもありました。

紋別市立博物館では今後も郷土の人材を紹介するほか、産業、生活文化、芸術など、幅広い分野の展示会を開催したいと考えています。



江戸川乱歩の自筆原稿「孤島の鬼」

(紋別市立博物館 業務係長 小林健一)



「イルカの追い込み漁」

去る4月21日に突然、「世界動物園水族館協会(WAZA)は日本動物園水族館協会(JAZA)を会員資格停止とし、1か月の間に改善策を講じないと除名処分とする」という通告書が飛び込んできました。その少し前からWAZAが強硬手段に出るかもという噂はありましたが、いざそうなってみると驚きを禁じえませんでした。

ここまでの経緯についてはマスコミでも大きく取り上げられておりますが、除名理由はJAZA加盟園館が、飼育展示するイルカを和歌山県太地町で行われている「追い込み漁」によって入手しているという点でした。

動物園・水族館は野生生物を間近に展示することによりお客様に驚きと感動を与え、生息域の破壊などの環境問題に関心を持っていただくこと、また、施設内での繁殖による希少動物の生息域外保全、種の保存に取り組むことという「命の博物館」としての役割を担っております。

近親交配による遺伝的な問題を回避しながらこの役割を将来にわたって果たしていくためには日本国内の園館のみでは個体数に限界があるため、海外の施

設との個体の交流(交換)が必要不可欠です。WAZAからの除名は交流のための国際的なネットワークから締め出されることを意味します。

一方でWAZAに残留する場合には、新たなイルカを導入できないことになり、水族館で最も人気のある動物が近い将来にいなくなってしまう恐れがあります。

WAZAへの回答にあたり、加盟する園館すべてによる投票を行うこととなりました。「追い込み漁からのイルカの入手をやめてWAZAに残留するか」、「入手を続けてWAZAを脱退するか」二者択一です。加盟152園館による投票の結果、残留することに決定したことは報道のとおりです。



「海外からの導入が期待されるホッキョクグマ」

(札幌円山動物園長 田中 俊成)



コラムリレー第二弾「学芸員お勧め！ 秘蔵品のモノ語り」の連載を行いました

北海道博物館協会学芸職員部会では平成26年4月21日から平成27年3月30日までコラムリレー第二弾「学芸員お勧め！秘蔵品のモノ語り」を学芸職員部会ホームページ上で連載してきました。学芸員の扱う資料の中には、学術的価値が高いとは必ずしも言えなくとも、その資料にまつわる歴史を紐解くと地域の歴史や自然を考える上で貴重なものが存在します。このコラムリレーでは各地域の学芸職員が、そうした普段あまり知られていない資料の「モノ語り」をご紹介しますことで、モノを保存することの大切さと楽しさを皆様にお伝えしたいということから始まったものです。今回のコラムリレーの投稿に際しては「文字数は1000文字以内、使用できる画像は1枚のみ」という制約を設けました。これは、読み手に対する配慮もあるのですが、限られた条件の中でいかにわかりやすく伝えるかという学芸職員にとって重要なスキルを磨く機会としたことから設定されたルールでした。約1年の連載で合計46本のコラムが投稿され、学芸職員各人の熱のこもったコラムを掲載することができました。様々な分野のあまり知られていない資料が紹介されており、

北海道の風土を知る上でも興味深いアーカイブになると思います。学芸職員部会では次のコラムリレーの内容について検討しています。新しい連載が決まりましたらこの場でもお知らせしたいと思います。

コラムリレーバックナンバー

学芸職員部会

ホームページ：<http://www.hk-curators.jp/>

トップページ右の「カテゴリー」→「秘蔵品のモノ語り」をクリック

北海道博物館協会学芸職員部会

北海道には、たくさんの素晴らしい自然、歴史、文化、産業があります。私たち学芸員は、それらの財産を次世代に引き継ぐために、様々な保全・研究、そして普及活動を行っています。現在170名の会員が参加し、情報交換や学び合いなどの交流を深めています。年会費1,000円で参加できますので、皆様のご加入をお待ちしています。

(北海道博物館協会学芸職員部会 事務局長 猪熊樹人)



余市宇宙記念館 平成27年度の取り組みについて

余市町出身の宇宙飛行士・毛利衛さんは、1992年9月、日本人で初めてアメリカ航空宇宙局(NASA)のスペースシャトルに搭乗し、多くの宇宙実験を成功させました。毛利さんの功績を称えて建設された余市宇宙記念館は、毛利さんの偉業を紹介するほか、宇宙で使用された実験装置や衣類など貴重な品々も多数公開、特別展や各種教室などを通じて、宇宙や科学の魅力を情報発信しています。

本年は、特別展「世界の技術遺産展」(8/30まで)を開催、零式艦上戦闘機(略称：ゼロ戦)を開発した技術力が、日本の新幹線や世界の航空機などの開発に多くの影響を及ぼし、現在も生かされていることから、ゼロ戦の実物大模型を展示するほか、大型ジェット旅客機のエンジン部品、客室窓など、航空機の実物部品や宇宙、航空に関連した技術遺産を多数展示しております。また、「世界のロケット」特別展(9/19～11/29)を開催、ロケットのペーパークラフト約70点の展示や大型解説パネル、映像などで、ロケット開発の歴史や現状をわかりやすく紹介いたします。

未来を担う子どもたちをはじめ、多くの来館者の宇

宙や科学への興味を育てようと「おもしろ宇宙教室」を開催。宇宙や航空、物づくりに関する講座、色々なロケットの製作や打ち上げ体験、科学実験体験、サイエンスショー、宇宙出前教室など、平成27年度は150教室を予定しております。

また、「3Dシアター」の新作番組を制作、4月より上映しております。近未来に実現が期待されている「宇宙エレベーター」をテーマとした余市宇宙記念館オリジナル映像。余市湾に浮かぶ「余市アースポート」からエレベーターで宇宙に出発する夢の世界を、飛び出す立体映像でお楽しみいただけます。

余市宇宙記念館では、来館者に楽しみながら学んでいただけるような取り組みを行って参ります。



3Dシアターの新番組「2041年 宇宙エレベーター」

(執筆者 余市宇宙記念館 打矢 崇)



平成26年度 第23回 北海道美術館学芸員研究協議会

3月5日から6日の二日間にわたり、北海道立近代美術館内において、第23回北海道美術館学芸員研究協議会が開催された。

一日目の研究協議のテーマとして設定されたのは「未就学児と美術館」。まず藤女子大学人間生活学部の杉浦篤子教授から「子どもと造形美術－児童画の発達と美術への関わり」と題した講話をいただき、発達段階の児童にとっての描くという行為の意味について理解が深められた。これを受けて、札幌芸術の森美術館の宮城学芸員が「『0さいからのげいじゅつのもり』を開催して」、市立小樽美術館の星田学芸員が「『伊藤英二 木のおもちゃ展』の関連事業について」、北海道立帯広美術館の藤原学芸員が「キッズミュージアム(託児室)について」と、いずれも児童を対象とした事業の報告を行い、活発な意見交換がなされた。近年、美術館の利用者がますます多様化し、未就学児童の来館も少なくないなかで、美術館がそうした新たなニーズへの対応を迫られている現状を再確認する内容となった。

その後、西村計雄記念美術館の磯崎学芸員より

「共和町の写真家・前川茂利」についての研究発表が行われ、さらに会場をホテル・ライフォートに移して総会および懇親会が催された。

二日目は、公立ほこだて未来大学システム情報科学学部の美馬のゆり教授の「学びの経験をデザインする」と題した講話からはじめられた。美馬氏は自身が関わる「ほこだて国際科学祭」を例に、科学と人々との接近をはかる試みの数々を紹介し、人々に学びを促すためには自発的行為が生まれ続ける環境づくりが重要であることを示唆した。続いて、道立函館美術館の大下学芸員による「『幕末・明治の戦争イメージ』展の成立ちと概要」、道立近代美術館の寺地学芸員による「荻原守衛の《文覚》について」の2本の研究発表がなされた。

最後に、北海道立近代美術館の寺嶋学芸副館長より、道立美術館における税務上のトラブルの報告があった。作家に支払った謝礼金について、数例の申告漏れが発覚し、税金分を返納していただいたというものだ。国税局の指摘によって明らかとなったということだが、作家との信頼関係に影響が出かねない問題でもある。厳粛に受け止め、改めてゆかなければならない。

(関口雄揮記念美術館 学芸員 門間仁史)

館・園の主な展覧会と普及事業

(平成27年7月～10月の行事予定)

石狩

●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)
 7/25 体験講座「テンキ作り～ハマニクで小かごを編む～」
 9/5 体験講座「サケ切身骨格標本をつくる」
 9/16～12/13 テーマ展「石で作った縄文文化の道具たち」
 10/3 トークイベント「ウメベオロジ/石狩海辺学2015」
 10/10 体験講座「縄文文化の暮らしをジオラマで作ろう」
 10/25 野外講座「石狩ビーチョーマーズ/秋の海辺の漂着物」

●札幌市豊平川さけ科学館(011-582-7555)
 8/8 公開さかな調査:10時～11時実施
 8/22 真駒内川ミニすいぞくかん:14時～15時実施
 9/23 さっぽろサケフェスタ2015:10時～16時
 10/10 琴似発寒川サケ観察会:10時～12時
 10/17 星置川でサケを見よう:10時～12時

●野外博物館北海道開拓の村(011-898-2692)
 7/18～8/23 夏・むら・ロマン
 8/1～8/30 停車場ギャラリー「平成の「生まれ出づる悩み」展」
 9/1～10/31 第33回北海道開拓の村児童写生会絵画展
 9/20～9/23 秋のふるさとまつり
 10/10～11 紅葉のむら・昔のたてものライトアップ(夜間開館)

●江別市郷土資料館(011-385-6466)
 7/18～9/27 戦後70年記念企画ロビー展「木製戦闘機が作られた時代」

●札幌市青少年科学館(011-892-5001)
 7/24～26、8/7～9、14～16 札幌市天文台夜間公開
 7/25 山崎直子講演会～宇宙と星と夏休み～
 7/25～8/23 夏の特別展「アリスのふしぎ体験ツアー」
 7/27、28 サイエンスジャー科学教室夏休み特別編
 7/30～8/2、8/6～9、8/13～16 小中学生の夏休み工作会
 8/1 プラネタリウム夜間特別投影「ディズニー音楽と星の世界」
 8/1、29 科学館天体観望会
 8/12 夏休み天体観望会
 8/21、9/4、18、10/2 詳しく学ぶ天文講座
 8/22、23 さっぽろ星まつり
 8/29 イブニングプラネタリウム

【特別展】挿絵の美・大衆文化の黄金時代～大正イマジユリの世界～
 【常設展アーカイブ】北海道文学のイマジユリ
 夏休み文学道場「中・高生のための創作講座」
 わくわくこどもランド「親子で楽しむコンサート」
 わくわくこどもランド「手作り教室:紙芝居をつくらう！」
 わくわくこどもランド「手作り教室:サマーブックをつくらう！」
 わくわくこどもランド「人形劇など」
 【特別展】没後50年文豪・谷崎潤一郎～愛と美を求めて
 【常設展アーカイブ】文学と美術の邂逅～白樺派とアララギ
 文学館まつり「文芸トーク、一日限りの資料公開、こども広場など」
 わくわくこどもランド「絵本の読み聞かせなど」

●北海道立文学館
 7/11～9/6
 7/29～31
 8/1
 8/4・5
 8/9
 9/5
 9/19～11/15
 9/19～11/15
 9/23
 10/3

●北広島市エコミュージアムセンター知新の駅(011-373-0188)
 6/6～7/20 企画展「写真から見る北広島のおゆめ」
 7/25～8/16 夏休み子ども特別展「知新の駅で大発見！きたひるしまの昆虫と植物」

7/26 「エコミュージアム講演会～わたしたちのまちのエコミュージアム～」
 9/5～11/29 企画展「仕事とくらしの道具展～大正・昭和の時代から～」

●北海道大学総合博物館(011-706-2658)
 8/2 パイオミメティクス市民セミナー「環境とイノベーション」
 農工連携によるフィールドデータサイエンス
 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「ナスカの地上絵を鳥類形態学と動物考古学から考える」
 パイオミメティクス市民セミナー「特許からみるパイオミメティクス」
 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「超巨大噴火に備えるには」
 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「深海魚場開発調査で得られた魚類-インドネシア沖インド洋-」
 「ランの王国」プレ小展示

●北海道立近代美術館(011-644-6881)
 (特別展)「夢見るフランス絵画」
 (近美コレクション)「日本画道逢い、淡島雅吉展」,
 「夏季名品選」
 学芸員によるギャラリー・トーク
 ミュージアム・スクール2015

「夏のコレクションめぐり5選(セルフ鑑賞ガイド)」
 「暑中お見舞いお返しを作ろう(ミニ・アトリエ)」
 子ども鑑賞ツアー
 夢見るフランス絵画・見どころトーク
 (特別展)「日韓近代美術家のまなざし」
 (近美コレクション)「高橋三太郎展」,
 「ガラスのかたち」,
 「秋季名品選」
 ギャラリー・ツアー
 国際交流レクチャー
 伝統キム子作り体験教室
 講演会映画上映会「わたしの祖国、ひとつの愛～イ・ソジュン(ソノ)の妻～」
 「農業」×「YOSAKOIソーラン」コラボレーション
 (特別展)「第30回記念 北の日本画展」
 (特別展)「全道展70周年記念企画展(会員・会友展)」

空知

●三笠市立博物館(01267-6-7545)
 7/17～10/12 特別展「すごい化石！」
 8/1、8/8 ワークショップ「アンモナイトの秘密」

8/8 講義「学芸員加納プレゼンツ 超マニアック化石教室」
 8/1、8/8 観察ツアー「展示化石にさわろう！」
 8/13～15 ワークショップ「化石博士になろう！」
 8/13～16 ワークショップ「化石博士になろう！」
 8/13～16 ワークショップ「化石博士になろう！」
 8/13～16 展示解説ツアー
 ●滝川市美術自然史館(0125-23-0502)
 7/4 ナイトミュージアムコンサート
 7/18～8/23 あべ弘士～動物のいのちかがやく森～
 9/12～10/18 英遠と万寿三 創作のひみつ 画室のスケッチから

渡島

●市立函館博物館(0138-23-5480)
 7/11～8/30 平成27年度特別展「千島樺太交換条約とアイヌ」
 7/26 講演会「写真で辿る千島アイヌの歩み」
 7/29 夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」
 7/30 わくわく科学教室「ドライアイスで遊ぼう」
 8/1 わくわく科学教室「親子で乾燥剤(なご砂)を作ろう」
 8/6 夏休み自由研究「黒曜石で矢じりを作ろう」
 8/11 旧函館博物館第一号・二号案内
 8/23 やさしく学ぶ「樺太アイヌのトンコリ」
 9/20 優しく学ぶ「北海道南部のアイヌ語」
 9/26 美術鑑賞会 嶋崎波響
 10/10 わくわく科学教室「手軽な魚の解剖学」
 10/15 古写真・古地図を歩く②

●七飯町歴史館(0138-66-2181)
 7/25 昆虫採集・標本づくり教室
 7/30 ジュニア探検クラブ「縄文探検！」
 8/1 駒ヶ岳の植物観察会
 8/5 夜の博物館「ななえの自然誌 3」
 8/16 ジュニア探検クラブ「町内を見学しよう！」
 9/2 夜の博物館「ななえの自然誌 4」
 9/26 ジュニア探検クラブ「収穫を楽しむ！」
 9/27 ふあみりーでいみゅーじあむ「月見だんごをつくらう」
 10月初旬 ななえの史跡を歩こう(峠下地区)
 10/24 ジュニア探検クラブ「昔のおやつ」

●北海道立函館美術館(0138-56-6311)
 7/15～11/8 (常設展)ミュージアム・コレクション夏秋 百花繚乱/華勢の世界
 オープニング・トークショー「鴨居玲を語る」
 7/26 (特別展)没後30年 鴨居玲展 踊り候え
 マジカル・ワークショップ「美術館に花を咲かそう！」
 8/8 特別展セミナー「鴨居玲の世界」
 8/22 美術映画会「名画の秘密シリーズ3 ルネサンスの巨匠」
 8/29 美術講演会「勅使河原蒼鳳 伝統に生き、現代をひらく」
 9/12 (特別展)草月流秘蔵コレクション展 勅使河原蒼鳳の眼と美の潮流
 9/12～11/8 ギャラリー・ツアー

マジカル・ワークショップ「作品を造形(いけ)よう！」
 ●八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館(0137-63-3131)
 7/14～9/27 徳川慶勝・義禮・義親と徳川農場
 7/18～11/29 新収蔵木彫り熊 ～八雲の知る人ぞ知る作家たち～
 10/6～11/8 コタン温泉遺跡出土品展

檜山

●開陽丸青少年センター(0139-52-5522)
 開催中～12/30 開陽丸進水百五十周年記念特別展示

後志

●岩内町郷土館(0135-62-8020)
 7/15～9/6 終戦70周年企画展「岩内と戦争」
 7/26 歴史講座第2回「終戦前後の島野村」
 9/12～11/23 町制施行115周年記念特別企画展「初代町長 梅沢市太郎」

●一般財団法人荒井記念美術館(0135-62-1111)
 7/15～9/13 常設展「ピカソ創作の軌跡」
 7/18～8/30 後志ミュージアムロード5館共同展「道～ON THE ROAD～」
 荒井記念美術館テーマ「ピカソの歩いた道」
 ワークショップ「かんたん！発泡スチロールスタンプを作ろう。(参加無料)」

常設展「ピカソと晩年の創作」
 ピカソ生誕祭(入場無料)
 ●小川原記念美術館(0136-21-4141)
 7/18～10/18 小川原 自伝風な展覧会～夏・空よ！
 7/18～8/30 しりべしミュージアムロード共同展「道」
 7/25 土曜サロン 北海道の美術入門「木田金次郎とフランス美術」
 8/8 ワークショップ「むつ先生とアートであそぼう！②」
 9/5～10/18 第57回麗彩会展
 9/23 ワークショップ「むつ先生とアートであそぼう！③」
 10/24～12/13 竹岡羊子展
 10/24～12/13 小川原 自伝風な展覧会～ベストセレクション

●小樽市総合博物館(0134-33-2523)
 7/4～10/2 運河館トピック展「博物館がすいぞくかん？～錦絵に描かれた魚たち」
 企画展「世界の蝶・小樽の蝶」
 チャレンジラボ「フタバキナーホルダー作り」
 昆虫標本をつくらう
 7/18～9/27 スター・ウィーク協イイベント「望遠鏡を作ろう」
 7月の土・日曜日・祝日 第17回青少年のための科学の祭典 小樽大会
 8/2 運河館はくぶつかんの「たなばた」
 8/3 企画展ギャラリートーク「博物館の蝶コレクションにみる世界と小樽」
 8/6～8/7 「北海道新幹線PRパネル展」
 8/7 ジュニアクラブ06会 実験教室「おいしい？ラムネを作ろう！」
 8/8 こどものための企画展「ギャラリートーク「チョコ」

8/8～8/16 8/9 8/14

ウの秘密をみつけよう！」「マッサンと博物館」
 プラネタリウム特別投影「天の川」
 8/15 星空観望会「夏の天の川と星図をみよう！」
 8/15 運河館トピック展ギャラリートーク「第一回
 8/15 水産博覧会について」「マッサンと博物館」
 8/23 ミュージアムラウンジ「明治初期の雑誌に登場
 する菓子—小樽郡教育所初代教授の日記より—
 チャレンジラボ！UVチェックピースでストラップ作り」
 8月の土・日曜日(9日を除く)
 ●西村計雄記念美術館(0135-71-2525)
 7/16～10/12 夏から秋の展覧会「西村計雄の日本紀行」
 7/18～8/30 しりべしミュージアムロード共同展「道—北海道遺産—
 7/25～8/16 夏休み!自由研究応援部隊
 7/25 トライアード「えのぐであそぼ こともたけでかへい絵に挑戦!」
 7/25 ボランティアによるカフェ・フルール
 8/7 トライアード「七夕タヨ! 星空の観察に挑戦!」
 9/2～10/12 共和町合併60周年・町制施行45年記念
 前川茂利展「きょうわのくらし」
 9/12～10/12 公募展「しょうかいしたいな わたしのだいすき」
 10/3 菊地慶一氏講話「戦後開拓ものかたり」
 10/31 西村計雄記念美術館開館16周年記念コンサート
 ●北—ヴェネツィア美術館(0134-33-1717)
 開催中～9/7 ヴィットリオ・コスタンティーニの世界—ガ
 ラスの魔法 魚・鳥・昆虫が大集合!
 9/8～12/7 ゴッホ ガラスモザイク絵画展

上川

●旭川市博物館(0166-69-2004)
 7/18～8/30 第75回企画展「移りゆく街・2015旭川」
 ●北海道立旭川美術館(0166-25-2577)
 7/3～8/30 写真文化首都 北海道「写真の町」東川町
 写真コレクション展 写真インパクト
 プロの指導による本格的な一眼レフカメラ
 (ミラーレス)によるワークショップ
 写真インパクト展 ギャラリー・トーク
 8/1,8/8 夏休み工作市場「テコアコ! オリジナルフォトフレームをつくろう!」
 8/1～12 北海道の四季と風土 らしさのあかり
 9/11～11/8 学芸員とめぐる北の旅(「北海道の四季と風土」展ギャラリートーク)

胆振

●仙台藩白老元陣屋資料館(0144-85-2666)
 7/18～8/16 平成27年度歴史と文化のまちPR展「しらおいの医師高橋房次」
 7/31-8/1 陣屋跡のホタル観察会
 ●苫小牧市美術館(0144-35-2552)
 5/2～9/6 中庭展示 Vol.5 藤井忠行 木という素材との対話に
 より生まれる造形を展開する旭川市出身の彫刻家・藤井
 忠行(ふじい・ただゆき)のインスタレーションを紹介します。
 7/4～9/6 こともとおとなのミュージアム 地底旅行 —
 地下資源をめぐる科学と美術の旅
 「文化公園アートフェスティバル」
 7/25・26 企画展「こともとおとなのミュージアム」関連イベント 施設見学会
 8/5 美術博物館大学③近世蝦夷地にやって来た英国船
 8/8 博物館クラブ②地底旅行ワークショップ
 8/22 特別展(9月11日～開催予定)の子どもガイド
 8/29 制作 美術館子ども広報部「ひとこま」④
 歴史見学会「苫小牧の歴史ウオーク」
 9/5 博物館クラブ③紙をつくろう
 9/12 ロビーコンサート
 9/19 花ひらく近代洋画の世界
 9/19～11/29 梅原龍三郎、安井曾太郎、須田国太郎ら大正～昭和初期の洋
 画家たちの公益社団法人糖業協会コレクション57点を展示します。
 9/19～12/27 中庭展示 Vol.6 高臣大介 洞爺湖町を拠点にガラスの
 有機的なフォルムを活かした作品を制作している高臣大介
 (たかひとみ・たいすけ)のインスタレーションを紹介します。
 9/26 美術博物館大学④空のエフェメラル—雲を探る—
 10/9 博物館クラブ④まぼろしの線路をさがそう
 10/10 美術博物館大学講座⑤昭和初期の洋画
 10/11 特別展記念講演会
 10/12 ボスター版びとこま制作 美術館子ども広報部「ひとこま」⑤
 10/24 はじめての油絵教室
 10/25 よみかきせ in ミュージアム 特別展開連イベント
 苫小牧市立中央図書館の司書による読み聞かせ

日高

●アポイ岳ジオパークビジターセンター(0146-36-3601)
 5/2～8/23 星空写真展—星降る風景—
 ●えりも町郷土資料館・水産の館(01466-2-2410)
 8/16,9/19,10/24 「豊(似)湖」自然観察会
 10/31～11/1 開削216周年「猿留山道」を歩く会

十勝

●浦幌町立博物館(015-576-2009)
 7/23～8/19 企画展「戦争の記憶展」
 7/25 えんそく博物館「原爆展を見学しよう」
 8/5 夏休み子ども博物館「アイヌ文化で遊ぼう」
 9/2～9/30 企画展「みのりの秋! 農機具の歴史展」
 10/17 博物館ミニ移動講座 根室本線の近代化遺産を巡ろう
 ●足寄動物化石博物館(0156-25-9101)
 7/18～8/31 化石体験夏休み限定:ミニ発掘アモスチルス
 9/12 白歯、石はみかくと玉になる。キラ砂さがし
 9/13 パロックコンサート:古楽と古生物のハーモニー
 あよる化石教室:500万年前の貝化石:釧路市立博物館と合同

釧路

●釧路市子ども遊学館(0154-32-0122)
 7/24～8/23 開館10周年記念イベント「すすめ!うみた
 ん～みんなと海の大探検～」(企画展)
 7/26・8/9・9/6 太陽観測会「太陽の素顔を探れ!」
 7/31・8/1・10/18 天体観測会「星空キャラバン」
 9/19～23 開館10周年記念イベント「グッド・トイキャラバン」(企画展)
 10/10～12 遊びんビッグ(企画展)
 ●北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)
 7/15～9/6 招き猫亭コレクション「猫まみれ展」アートに
 なった猫たち—浮世絵から現代美術まで
 7/15～9/6 <見てみてうちの猫>写真・スケッチ揭示板
 7/15～9/6 猫特典<あなたもわたしも猫まみれ>
 7/15～9/6 遊学館+芸術館 めりスラリー(逃げた子ねこをさがせ)
 7/24～8/19 展示室でグイスラリー(ねこ仮面からのちようせんじょう)
 7/25 夏のキッズ・アトリエ
 7/26 アートシネマ館「あ、春」
 8/8 子どものための鑑賞会+わくわくバックヤード・ツアー
 8/9 夏の思い出に…『銀河鉄道の夜』上映会
 8/22 ワークショップ「リサイクル猫をつくろう」
 8/29 ピアノ・コンサート
 9/5 アートシネマ館「セーラー服と機関銃」
 8/23 パフォーミング・シアター2015「ポケットサーカス」
 9/12 ねこ寄席～なちゆる座
 9/12 ギャラリー・トーク
 9/12・13 子どもが味わう—はじめての抹茶
 9/12～11/11 五味太郎作品展【絵本の時間】スペシャル
 9/19～27ただし、24は休館日 シルバー・ウィークのお楽しみ
 9/19,10/10,17 ギャラリー・コンサート
 9/26 アートシネマ館「風花」
 9/26,10/24 絵本の読み聞かせ
 10/3 ジュニア・アートスクール2015
 10/20～11/11 『キラがる日』のできるまで木島誠悟絵本原画展

根室

●羅臼町郷土資料館(0153-88-3850)
 9/6 松法川北岸遺跡出土品重要文化財指定記念シンポジウム

網走

●美幌博物館(0152-72-2160)
 8/2～10/25 平成27年度美幌博物館特別展「すてきな昆虫たち」
 8/9 美幌博物館フォーラム「身近な自然からの贈り
 9/29 物～不思議と感動に満ちた昆虫の世界～」
 9/1～30 美幌博物館講座「黒曜石の産地を見に行こう」
 9/26～27 美幌博物館講座「知れば知るほど奥深いキノコ」
 10/3 美幌博物館講座「身近な場所にいる不思議なトンボ」
 ●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)
 7/18～10/25 第30回特別展「森と川の精霊とともに ロ
 シア・アムール地方のアート&クラフト」
 7/25 はくぶつかんクラブ「夏休み・ミュージアムアルムづくり」
 8/1 はくぶつかんクラブ「北の動物でつくるサンキャッチャー」
 8/8 はくぶつかんクラブ「楽しい考古学入門 拓
 8/29 本づくり～土器のもんようをつつしとろう」
 9/5 上映会「北方民族博物館映像上映会」
 9/19 講座「北海道博物館紀行「標津町ホー川史跡自然公園」
 9/20 講座「アムール流域・ナーナイの文化」
 10/10 講習会「ナーナイ文化のワークショップ」
 10/31～11/29 講習会「お細工物 すずめ」
 ●博物館網走監獄(0152-45-2411)
 7/26 夏休み体験講座 流木デアート
 8/1 学芸員による庁舎展示解説会
 8/2 夏休み体験講座 ガラスの中は水族館
 8/7 セタイベント 流しそめんと短冊に願いをこめよう
 8/30 農園体験 とうもろこしの収穫とコーンポーカージュース作り
 9/1～3/30 北海道集治監展 北海道開拓のために明治時代に
 設置された5つの集治監の歴史と資料を展示します
 9/6 農園体験 収穫物を使ってケーキを焼こう
 9/27 十五夜イベント 日本各地の十五夜の風習を展示します
 10/4 農園体験 サツマイモの収穫とスイートポテトを焼こう
 10/18 秋の自然体験 森のバードコール・木の実でアブジェ
 ●網走市立郷土博物館(0152-43-3090)
 8/1～9/30 網走市立郷土博物館特別企画展「網走のハチ」展
 ●網走市立郷土博物館分館モロコ貝塚館(0152-43-2608)
 7/25日～(11月までを予定) 講座「骨で組み立てるモロコ貝のクジラ」
 ●紋別市立博物館(0158-23-4236)
 7/25～8/16 特別展「アニメーション演出家 棚橋一徳展」
 7/29 子ども考古学体験「縄文土器作り体験」
 8/5 子ども考古学体験「石器作り体験」
 8/8 番屋講座「おり染めでペン立てを作ろう!」
 8/9 博物館講座「終戦70年 宮本和男語り 終戦時の樺太(仮題)」
 8/22 第23回 オホーツク海文化のつどい
 9/12 番屋講座「ホタテ貝に絵を描こう!」
 9/26～10/18 特別展「アートとの対話」
 9/27 子ども考古学体験「火おこし体験」
 10/10 番屋講座「プラ板で遊ぼう!」
 10/18 体験教室「ガラス玉を作ろう!」
 ●湧別町ふるさと館JRY・郷土館(01586-2-3000)
 8/1～19 移動展「湧別町川西遺跡のオホーツク文化」
 8/5 展示解説会「湧別町川西遺跡のオホーツク文化」